

大崎城(豊橋市船渡町城戸中)(幸稻荷神社)

大崎城の創築は、永正年(1504-1520)間初頭に伊庭氏が居館を築いたという説があるが、定かではない。

大崎城が歴史上に登場するのは、永正 15(1518)年の事で、今川氏の後援で吉田城奪還を図った牧野信成によって、止むを得ず開城して退却した戸田金七郎宣成が、牧野氏の勢力拡大を防ぐ目的で大崎城を築城した時である。

享禄 2(1529)年、岡崎城の松平清康が三河統一のために東三河に侵攻、吉田城を攻略し、田原城の戸田宗光も清康に降って、東三河は松平氏の勢力圏となった。

ところが、天文 4(1535)年、尾張守山城で清康が家臣に殺害されると、一気に松平氏の勢力が衰えた。

天文 6(1537)年、宣成は吉田城を攻略して城主牧野成敏を追い出した。

これにより、大崎城は使命を終えて廃城となったと考えられる。

なお、蛇足であるが、天文 15(1546)年、駿河の今川義元が東三河に進出すると、吉田城で宣成は討死し、田原城も攻略されて、戸田氏は滅亡した。慶長 6(1601)年、旗本中島重好が 607 石でこの地に陣屋を構えて、以後 9 代に渡って陣屋を維持した。

大崎城址は龍源院、幸稻荷神社が城址である。

城址碑は龍源院の参道脇に立てられている。城址には空堀や土橋が残されている。

帝國博物学協会による

